

## 仏様のおはなし新シリーズ第74集 その2 「いただきますの言葉」

多くのいのちと、みなさまのおかげにより、このごちそうをめぐまれました。深くご恩を喜び、ありがたくいただきます。

先日ニュースで、ある会社のマヨネーズの賞味期限が二カ月伸びるとの報道がありました。「食品ロス」を減らすための対策だそうです。食品ロス。最近よく耳にする言葉です。農林水産省の報告によると、日本では年間約千七百万トンの食品廃棄物が排出されています。このうち「食品ロス」、つまり本来食べられるのに廃棄されているものは、年間約五百万〜八百万トン含まれると推計されています。これは国内の年間コメ消費量にも匹敵し、日本人一人当たり換算すると、おにぎり一〜二個分が毎日捨てられている計算になるそうです。正直驚きました。またもつたいないなあとも思いました。私自身のことを振り返ってみると、スーパーなどに買い物に行った際、賞味期限が迫っているものより棚の奥の方にある新しいものをわざわざ取って、賞味期限が長いのを確認して買ってしまいます。そこには、賞味期限が短いと使い切れずに捨ててしまうかもしれないという思い。なんとなく新しく新鮮なほうがいいという思い。誰か必要な人が買ってくれるだろうという思いなどがあります。

よくよく考えてみると、使い切れずに食べものを「もつたいないなあ」と思いながら自分で捨てるという行為をせず、そのことを人任せにしているのです。このような私が「自分は食べものをなるべく捨てずに、ありがたくいただきたいです」と言えるのでしょうか。新鮮であるかそうではないかの違いによって、私を支えてくれるいのちの重みは変わってくるのでしょうか。

「多くのいのちと、みなさまのおかげにより、このごちそうをめぐまれました。深くご恩を喜び、ありがたくいただきます。」一日三回口にするこの言葉が、どういふことなのかを、改めて考えずにはいられません。

